

医療費とダイエット

太っていることと健康にはどのような関係があるのか？

日本人の体格の変化を概観し、

肥満と医療費の関係を明らかにする。

古川 雅一

Furukawa Masakazu

京都大学経済研究所先端政策分析研究センター研究員

世間にはさまざまなダイエットのための機器、食品、サービスが溢れ、多くの人々がこれらを購入しようと行動している。その購入動機、すなわちダイエットしたいと考える理由は人それぞれ異なり、そこには個々のさまざまな価値判断が働いているであろう。美容的なものを重視する人もいれば、他の目的の人もいる。いずれの理由にしても、太っていることがさまざまな病気の原因となるのであればダイエットすることが社会的厚生改善につながるであろう。太っていること、すなわち肥満に起因する医療費の問題も今後の重要なテーマである。

肥満はもともと先進国に多くみられていたが、現在は世界共通の問題である。たとえば、アメリカやオーストラリアは1980年頃と比較して肥満者の割合が約2倍に、ラテンアメリカや中国、インドなどでも肥満者数が大幅に増加し、深刻な問題となっている。もちろん日本も例外ではない。国民健康・栄養調査によると、30代以上の男性の3人に1人が肥満という現状がある。ここでは、まず、肥満が引き起こす問題や日本人の現状を今一度確認する。そして、肥満が医療費に与える影響について先行研究を紹介しながら整理・確認したい。

肥満の判定と肥満症の定義

まず、肥満の判定と肥満症の定義を確認しておこう。肥満とは脂肪組織が過剰に蓄積した状態のことであり、疾病そのものを指しているわけではない。例えば、肥満の程度が重度にも関わらず、明確な合併症を持たない例も認められる。逆に肥満の程度が軽度にも関わらず明らかな健康障害を持つ例も多数存在する。ゆえに、肥満はリスク因子として捉えるのが一般的である。ただ、肥満研究の進展や肥満症の診断基準明確化の必要性から、日本肥満学会はWHO等による肥満の判定基準に準拠し、日本人に対してはBMI25以上を肥満としている。また、肥満症については「肥満に起因ないし関連する健康障害を合併するか、その合併が予測される場合で、医学的に減量を必要とする病態」と定義している。

肥満はどのような問題を引き起こすのか

前述の通り、肥満は疾病そのものを指しているわけではないが、たびたび問題にされる。

著者紹介/1967年生まれ。京都大学大学院経済学研究科修了。博士(経済学)。2007年より現職。BMI値21.2。著書:『中高年から始めるイキイキ健康スポーツ』(共著、現代書林)。論文:『医療支出額、喫煙率や肥満割合に基づく各国の分類と医療支出額への影響要因分析』*Health Sciences*, 21(3), 2005。ほか。連絡先:furukawa@kier.kyoto-u.ac.jp

